

中年独身者（40～69歳）の老後生活設計： 特集にあたって

高山 憲之

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構 理事長 一橋大学名誉教授

【 記 事 情 報 】

掲載誌：年金研究 No.28 p.1 ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2026年3月31日

掲載ホームページ：<https://www.nensoken.or.jp/publication/nenkinkenkyu/>

DOI：https://doi.org/10.20739/nenkinkenkyu.28.0_1

日本では1990年以降、男女ともに生涯未婚率が一貫して上昇しており、その割合は2040年には男性が30%、女性が22%になると、それぞれ推計されている。最近では親と同居する中年未婚者も多い。

中年未婚者の生活実態や意識、老後の生活設計などは、いったい、どうなっているのだろうか。この点に関する調査や研究は現在、決定的に不足している。関連データが、ほとんど蓄積されていないからである。

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構では、その前身の1つである財団法人シニアプラン開発機構の時代から、中年の未婚女性に注目し、その老後設計等について2000年度から5年おきにアンケート調査を実施してきた。そして、その延長上で2025年度には第6回目の調査をインターネット調査として実施した。第5回調査から中年の未婚男性も調査対象に含めた。また、第6回調査では、調査対象者の年齢上限を64歳から69歳へ引き上げた。さらに、離別した独身者も調査対象者とした。有効回答数は男女合計で4800サンプルであった。

本誌第28号は、上記の第6回「独身者（40～69歳）の老後生活設計ニーズに関する調査」に関する特集号である。分析論文は丸山桂氏、大風薫氏、藤森克彦氏、平河茉莉絵氏および稲垣誠一氏の5氏が執筆している。一方、第6回調査の調査目的と方法、調査結果の概要については、いずれも仲津留隆氏が解説している。

今回の調査によると、未婚グループでは、結婚しなくてよかったという回答が男女とも約3割となっていた。また、離別グループでは、離婚してよかったという回答が男性で40.1%、女性で69.8%（女性の方が圧倒的に高い）など、注目すべき調査結果が少なくなかった。さらに、母親と同居している割合は、未婚が79.6%、離別が42.4%であり、両者の間に大きな違いがあった。